

## 樹木調査奮闘記



相田 幸一

2014年11月から始まった樹木総量調査は、正式には「多摩市公共緑地樹木総量把握調査業務委託」であるが、2016年1月末にすべてを修了しました。

午前・午後に分けて数えると、合わせて45回に及び大仕事でした(午前1回、午後1回としての計算)。調査に参加した人は会員29人で、延べ総数は224人です。実際になな山緑地の会で活動している会員は、およそ35人ですから83%の人が汗を流してくれたことになります。そして最後には中原会員がデータの整理・地図上にプロットの労を担ってくれました。思い返してみると、皆さん本当によくやってくれたと感謝でいっぱいです。

胸高(1.2mの高さ)直径5cm以上、樹高2m以上が調査対象で総本数2,032本を数えました。5mの箱尺(スタッフ)を使っての樹高と枝張り測量、巻き尺に直径を換算した目盛りを書き込み胸高直径を測り、1本1本ナンバーをつけ、調査済みの黄色のテープを巻きます。そして調査票に詳細を書き込み、分割した拡大地図に樹木位置を書き込んでいく作業でした。

平坦で足元のすっきりした調査し易いところは気持ちよく、楽しく進みましたが、これは限られた場所だけで、急斜面やアズマネザサの藪に阻まれ立往生したこともたびたびでした。少し細い道でも付けてから始めればよかったかと思うことも多々ありました。

冬場の寒い時でも大汗をかくほどの奮闘が続きました。全身汗と藪のほこりにまみれたり、腰につけたナタ・ノコ・剪定バサミを藪に取られて探し回ったり、蚊の出るころは腰につけた蚊取り線香を藪の中で見失い、必死で捜査をしたり。こんなことの繰り返しが続きました。

夏場の時期は、暑さや蜂やその他の虫害を考え、この作業は厳しいものになることが予想されました。そこで、これを避けるため6月～9月の間は作業を中断しました。後半の10回くらいは各々の樹木に接近しづらい場所が残り、藪に阻まれ箱尺の持ち込みもできず、これまでに培った眼力と感と気合で樹高・枝張りを目測で計上していきました。既に皆、その域に達していたのでした。今思うと、気の遠くなるような作業をとにかくにも、やり遂げました。

この調査の成果を少し振り返ってみたいと思います。樹木の種類はこれまでに84種を数えていましたが、今回の調査対象では低木は数に入らないので53種類でした。その中で一本立ちに限って最も大きかったものは中の山のヤマザクラで直径70cmでした。直径50cmを超えるものは、コナラ・クヌギ・ヤマザクラ・ケヤキ・スギ・アカマツなど21本ありました。全体を見ると、種類別ではヒサカキ610本、コナラ437本、ヒノキ152本、エゴノキ120本、ヤマザクラ117本、スギ111本、シラカシ108本、クヌギ90本であり、この8種類以外は多くても数十本程度です。

この調査結果をどう活用していくか、今後何年を目途に更新調査を行うかなど課題がたくさんありますが、今後に残る貴重な資料となることを期待しています。



## 観察農園の担当になって

高橋 彰

観察農園の担当になって1年が経過した。

この間に収穫した作物は、ジャガイモ、タマネギ、スイカ、里芋、落花生、大根、ニラの8種類であった。芋類と根菜類が多いが、これは作りやすく、多収穫が期待でき、貯蔵性もよく、小分けもしやすいなどからである。

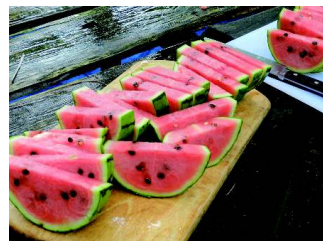
観察農園の土壌は年々黒味を増し、肥沃化が進んでいる。これは毎年、落葉で作る堆肥を大量に投入していることと、化学肥料を使わず、元肥、追肥に有機質肥料の油粕、牛糞、鶏糞を施していることの相乗効果である。

畑の作業で重要視したのは、作物の成長を阻害する雑草を生やさない、大きくしないことであった。その対策の一つは作物の回りに枯草や刈草を小まめに入れることである。これは、雑草が生えない効果だけではなく、作物の乾燥障害の防止と、腐って肥料効果も期待できる。ただこの対策で万全、というほど雑草は弱くはないので、数は少ないが生えてくる強い雑草には脱帽で、手作業で除草することに努めるほかなかった。

栽培した作物の中で、特に印象に残ったのはスイカであった。スイカは5年間は同じ場所に作付けできないほど連作を嫌う、しかも出来具合は天候に大きく左右される。昨年、一昨年と作付けされているため、連作障害のリスクを回避するため、接ぎ木した小玉スイカの苗を3本購入し、6月9日に植付けをした。植えてから本格的に成長し始めるのに3週間を要したが、この間有機肥料をしっかり施し、

摘心をし、事前に刈って乾燥させておいたカヤを全体に厚く敷き詰めた。7月に入ると日々驚くほどのスピードで成長し、まもなく雄花に続いて雌花も咲き始めたので、3日ごとに足を運び、授粉した。8月9日の活動日には蔓がエリアいっぱいに広がり、大きくなったスイカが20個ほどにもなったことから、朝礼の時、8月23日から収穫を開始する旨の報告をした。全ては順調と思われたが、8月12日、スイカを見に行き、その光景に愕然とした。大きなスイカ2個が横に真二つに割れていたのだ。水分過多による皮と果実の成長差が原因であるが、全滅の危機も想定し、スイカの姿勢を縦にすれば少しは助かるのではと考え緊急処置をした。残念ながら効果は思わしくなく、その後も割れは続き、1.5kg前後のスイカ27個中16個が割れ、正常なのは11個で、4割にとどまった。8月23日は活動日ではないのに、スイカ収穫のため小雨の中、12名の方が集まって下さり、試食を兼ねて、食べてもらった。結果は甘くて美味しいとの評価をいただいた。みなさんの好意に感謝している。

畑仕事は自然が相手だけに予期せぬリスクはつきものだが、今後とも創意と工夫だけは怠らないようにしたいと思う。



甘かったスイカ

## 「なな山緑地植物標本プロジェクト」発足

「なな山緑地植物標本プロジェクト」、通称「標本プロジェクト」が発足しました。なな山緑地内に生息する植物標本を作り、学術標本として牧野標本館へ寄贈し、「東京都植物誌」の刊行と植物学の基礎研究に寄与することを目指すものです。

標本を作るに当たって、4月1日（金）午後1～4時、首都大学東京牧野標本館の加藤英寿先生を招いて「なな山の

植物標本作り」講習会が開催され、14人もの会員が参加しました。まず、先生が作ったイチゴ、ダイコン、ツクバナウツギの標本を見せてもらいました。それは色も鮮やかに残った美しくもダイナミックな標本で、標本の概念を覆されるようなものでした。つぎに山へ入り、イヌシテ、クロモジ、オオヤマザクラで木本の標本作りの方法を、ベニシダ、ハコベで草本の標本作りの方法を学びました。広場に戻ってからは完成度の高い押葉標本を作る技術を学びました。標本を作るに当たっては、よく観察し、できるだけ情報の多い状態の植物を採取し、思いを込めて標本を作ることが大切とのことでした。最後に3月に、なな山で採取した会員それぞれの標本を発表し、先生から高い評価をいただき、嬉しい一時でした。先生は、なな山をすっかり気に入られたようで、参加者とゆっくりとお話をして解散となりました。

(中原)

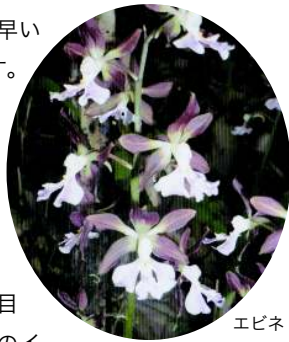


イヌシテ（左）とベニシダ（右）の標本作り

## なな山で遊ぶ

湯元 八重子

なな山に通うようになって、早いものでもうすぐ2年になります。仕事を辞めるその時まで、ボランティアという文字は私の辞書にはないと思っていました。山歩きが好きで、よく奥多摩を歩きました。いつの頃からでしょうか、森の荒廃が目につくようになって、水道局のイベントに参加したことがあります。鷹ノ巣山から奥多摩までの長い尾根の最後のあたりの斜面でした。サポートを受けながら、枝打ちと間伐を体験しました。スギの木の上まで登ってノコギリで落とすのはスリル満点でした。また行きたいと思いましたが、仕事もあり、参加できませんでした。定年後、何をするか、色々やってみました、なんとなく向いていない感じでした。そんな時になな山と出会い、初級ボランティア講座を受けることが出来ました。奥多摩まで行かなくても、こんなに近くに自分のしたいことがあったなんて、多摩に移り住んで本当によかったと思っています。多摩丘陵の自然を壊して生活している私たちだからこそ、元々の自然を思い、残されたものを大事にしたいと思えるのではないのでしょうか？ 元々豊かな自然の中で暮らしていたら感じ方はまた違っていただのかも知れないと思います。山歩きの楽しみは、花たちとの出会いにもあります。今まで見たい見たいと思っていたキンラン、アマナ、エビネなんか、一体どこへ行ったら会えるの？ と思っていたのに……。他にもここで初めて会った花がいくつかあるでしょうか。シュンランに会った時の嬉しさはどう言ったらわかっていただけるのでしょうか。今年もまた、楽しい季節がやってきました。温暖化で日本の木や花がどうなってしまうのか、心配なこともありますが、とりあえず今年も山に、なな山に通う日々が始まります。



エビネ

### 平成 27 年度なな山緑地の会総会が開催されました

3月27日9時15分から百草団地集会場にて総会が開催されました。活動報告、会計報告は異議なく承認され、役員等改選ではGV運営会議担当に名黒氏、和田緑地担当に大井氏、記録担当に宮崎氏を選任しました。平成28年度活動計画の審議では2件の怪我の発生があったことを踏まえて安全作業を優先することを再確認する、中の谷のスギの実生を育成する、および新しく和田緑地の活動を支援協力する件を明記することが提案され、計画に追加されました。平成28年度予算では、エンジン付運搬車の購入の件が討議され、その方向でいくこととなりました。安全についての説明他があり10時40分閉会しました。(鎌田)

## カラスビシャク

永田 美夫

ハエ族にとって腐った肉の臭いというのは、ヒト科ノンベ属におけるアルコールと同じように心を奪うものであるらしい。

サトイモ科の植物・カラスビシャクの花が出すその臭いに惹かれて仏炎苞の中に迷い込んだハエは、閉じ込められたことに気づいてもがき回るが、その動きを察知したかのように、そのとき雄花が開き、相前後して花の下にわずかな隙間ができる。体中に大量の花粉をまとったハエは、ほうほうのていで外に逃れ出るが、隣のカラスビシャクが放つ腐臭をかぐと、またふらふらと仏炎苞の中に迷い込み、奥に鎮座する雌花に花粉をこすり付ける。

ひどい二日酔いに幾度となく苦しんだはずのノンベ属が、一日も経つと、そんなつらい思いをすっかり忘れて、またぞろ性懲りもなく夜の巷に繰り出す姿に似ていなくもない。カラスビシャクと同じサトイモ科の仲間には、出口を用意せずに、迷い込んだハエを獄死に追い込む種類もあるというのだから、カラスビシャクはまだまだ良心的であると言えないこともないのだが、それにしても見事な戦略である。だが、そのようにしてできた種子は、まさかの時のための用心にすぎなくて、主として土の中の芋で増えるというのだから、恐れ入るしかない。

しかし、この程度で恐れ入ってはいけい。カラスビシャクの葉の付け根にはムカゴが用意されているし、それだけでは安心できないと、茎の途中にもこぶのようなムカゴをつける。二重、三重、四重の危機管理策である。

ここまでは稲垣栄洋氏『身近な雑草の愉快な生きかた』からの受け売りだが、物質文明のただなかに生き、ただ消費（浪費？）だけに心を奪われてきた私が、どこかでカラスビシャクの爪の垢でも煎じて飲んでいたら、今頃は左うちわの生活が出来ていただろうと思うと残念でならない。

しかし、考えてみるまでもなく、カラスビシャクに爪は無いのだから、はじめから無いものねだりというほかはないのである。



カラスビシャクの仏炎苞(上) 葉(中)、茎の途中についたムカゴ(下)

# なな山日記 (活動・観察記録)

<p>No.283 2015年12月23日(水)曇り 気温8℃ 参加者27人 豚汁で仕事おさめ。 昼食後ミニ門松を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業/車道沿いと歩道の草刈り、落葉掃き、清掃。樹木調査。門松作り。</li> </ul> 	<p>No.284 2016年1月10日(日)晴れ 気温13℃ 参加者28人 山初めの神事。「なな山だより36号」配布。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業/くず掃き、落葉を堆肥箱に運搬。側溝の掃除。テーブルの修理、樹木調査。</li> <li>● 観察/ウメ(紅梅、白梅)が咲いた。ハチの巣を発見。</li> </ul> 
<p>No.285 2016年1月24日(日)晴れ 気温8℃ 参加者27人 樹木調査2000本達成。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業/樹木調査。ヤマザクラ(直径約60cm)の伐倒、枝払い、玉切り。西の山に堆肥箱新設。ウメの木剪定。</li> <li>● 観察/オオイヌノフグリ、ヤツデの花が咲いた。</li> </ul> 	<p>No.286 2016年2月14日(日)晴れ 気温23℃ 参加者21人 樹木調査は53種、2032本を記録して終了。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業/コナラ2本(直径35cm、25cm)伐倒、後片付け。雪害のエゴノキの処理。畑に耕耘機をかけ、ジャガイモの植付け。</li> <li>● 観察/シロミノマンリョウの実が美しい。ヒイラギナンテンの花が咲き出した。</li> </ul>
<p>No.287 2016年2月28日(日)晴れ 気温15℃ 参加者24人 チェーンソーとなたで二人の会員が怪我をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業/コナラの伐倒。コクラン保護のため中の山で作業道の付替え。</li> <li>● 観察/アセビ、カワツザクラ、ボケの花が咲いた。</li> </ul> 	<p>No.288 2016年3月13日(日)晴れ 気温14℃ 参加者28人 植物標本作りプロジェクト開始。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業/枝折れや倒木の処理。ホダ木の運搬。アズマネザサ養生区域の設定。標本用植物採取。</li> <li>● 観察/ウグイスカグラ、シュンラン、ヒゴスミレが咲きだした。</li> </ul>
<p>No.289 2016年3月27日(日)晴れ 気温16℃ 参加者26人 平成27年度なな山緑地の会総会開催。キャベツ豊作。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業/シイタケの駒打ち、仮伏せ。ホダ木の整理。倉庫の整理。道具の調整。キャベツ収穫。スズメバチ用ハチトラップ設置。標本用植物採取。</li> <li>● 観察/ニオイタチツボスミレが咲き、ヤブレガサの葉がその姿に開き始めた。</li> </ul>	<p>No.290 2016年4月10日(日)曇り 気温22℃ 参加者27人 川添会長と赤羽さんが来訪、安全の講話をされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業/倉庫備品の棚卸し。ヤマザクラの苗木移植。伐倒したコナラの整理。チェーンソーの目立て。標本用植物採取。</li> <li>● 観察/ヤマザクラが満開。マルバアオダモ、ニワトコ、タマノカンアオイの花が咲いた。</li> </ul> 

## なな山で行われたイベント

1月12日、26日、3月8日、22日(火) なな山めかいクラブ、多摩めかいの会と共同活動  
2月13日(土) 南鶴牧小学校「なな山で遊ぼう」  
2月9日、23日、4月12日、26日(火) めかいクラブ  
4月1日(金)「なな山の植物標本作り」講習  
4月23日(土) 多摩市、多摩グリーンボランティア森木会主催「多摩市グリーンボランティア講座15期初級」

## なな山だより 第37号 2016年5月8日発行

発行 なな山緑地の会  
発行責任者 高木直樹  
住所 多摩市和田1394-13  
ホームページ <http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/>  
編集委員 鎌田文雄 中原君代